

【樹木の部屋】

ノウゼンカズラ（ノウゼンカズラ科ノウゼンカズラ属 *Campsis grandiflora*）

和名：ノウゼンカズラ（凌霄花） **別名**：ノウゼン、ノショウ

英名：Chinese trumpet vine、Chinese trumpet creeper

シソ目 蔓性落葉低木

原産地：中国

花言葉：名声、名誉、栄光

花色：橙、黄、赤



← 写真-1 ノウゼンカズラ

撮影日：2019年07月05日

撮影場所：大奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 ノウゼンカズラの花

撮影日：2019年07月05日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ノウゼンカズラの蕾

撮影日：2019年07月05日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



→ 写真-4 ノウゼンカズラの葉
撮影日：2019 年 07 月 05 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん



初夏になると、よく見かける花です。

葉は奇数羽状複葉で対生します。小葉は2～6対(5～13 枚)で縁には粗い鋸歯があり無柄です。側小葉は卵形ないし広卵形または楕円形で、その表面は濃緑色で光沢があり、先端は鋭頭または鋭尖頭で基部は広い楔形です。

枝先に円錐花序を出し、花冠は広い漏斗型で、先端は5裂し平らに開く花を対生します。雄蕊は4本のうち2本が長く、雌蕊の先端は最初2又に開いており、何かが触れると閉じる性質があるそうです。

主な開花期は7～8月で、花色は濃い赤オレンジ色で非常に目立つ色彩です。一つ一つの花は短命ですが、次々と新しい花を咲かせます。曇天だと花がつぼみのままぼとりと落ちることがあります。また、蔓の伸びる勢いが強すぎるときも、同様の現象が起こるそうです。

蔓は長さ3mから10mほどまで成長し、枝や幹から気根と呼ばれる根を出し、それが壁やフェンス、他の樹木などにへばりついて体を支えて上に伸びていきます。さらに地下茎を延ばし蘖を周囲に芽生えさせ、繁殖します。

日本には古い時代に入ってきており、平安時代の本草書『本草和名(ほんぞうわみょう)』(918年)に「乃宇世宇(のうせう)」の名が見られるほど、古くに渡来したといわれています。

樹勢が強く、よく成長するため落葉期の2月に前年の枝を全て切り落とし、幹だけにする整姿剪定を行うと良いそうです。日光不足では花がつかず、蔓は固定していないと冬に枯れてしまうそうです。

石川県金沢市の玉泉園には、豊臣秀吉が朝鮮出兵の折に持ち帰ったとされる、樹齢400年になるノウゼンカズラの古木があります。

ノウゼンカズラ属は本種ノウゼンカズラ(*Campsis grandiflora*)と、アメリカ南東部原産のアメリカノウゼンカズラ(*C. radicans*)の2種からなり、これらの交雑種である園芸品種も流通しているそうです。栽培は容易で、濃紅、黄などの花色の品種もあるそうです。